

令和4年度 磐田市立磐田北小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供	本気で聴いて、つなげて考える子供	授業の内容がよく分かる 目標90%	A	【児童回答92.4%、保護者回答86.0%、教師回答79.2%】 児童の自己評価は高い数値が見られた。TIによる授業や対話活動を行い、丁寧に指導した結果だと考える。また、タブレットを日常的に扱うようになったためドリル学習として「eライブラリ」を有効に活用することができている。今後も通常の漢字や計算ドリルに加えて実施し、学習内容の定着につなげていく。 教師の回答が低い点については、指導力不足等の反省もうかがえる。しかし、個に応じたきめ細やかな支援・指導ができていていると感じている教員もいることから、今後も個に応じた支援・指導に配慮しながら、対話的で主体的に学ぶ授業を展開できるよう、授業研究や研修を進め、指導力向上を図る。	教師自体は個別指導はできていると感じているが、教師の回答は低いことが気になる。子供一人一人に力を付けるために、指導力の向上に努めてほしい。
		友達や先生の話をつかろうとして聞き、自分の考えと比べている 目標90%	A	【児童回答94.1%、保護者回答83.3%、教師回答79.6%】 タブレット端末を活用することで、自分の考えを表現したり、友達の考えを知ったりすることが容易になったため、自分の考えと比べながら話を聞くことができたことと自己評価できた子供が多かったと考える。 タブレット端末の導入により、考えを表現できたり、子供たち同士の共有が容易になったりという結果が2年間の調査研究事業で分かった。今後も自分の考えを表現することへの抵抗を減らしていき、より対話を大切にしたい授業づくりを進めていく。	手を挙げるのが恥ずかしい子供が増えてきているが、直接人前で声を出して伝えることが大切である。学校では声を出していく活動をしたい。授業では、子供同士の対話は生まれているように感じる。対話を大切にしたい授業づくりに今後も取り組んでほしい。
い自分を尊重する心をもち、正しく判断し、よりよい自分発揮する子供	自分も人も大切に、挨拶・返事のできる子供	周りにあるひと・ものを大切に、自分のよいところにも気付いている。 目標90%	A	【児童回答92.0%、保護者回答84.1%、教師回答82.9%】 子供たちは、学校へ通うこと自体を好意的に捉え、学級での生活も含め友達と楽しく過ごすことができていると考える。朝のあいさつ運動、委員会の企画活動、異学年との交流、地域での校外活動など、人との触れ合う機会も増えてきた。まだまだ感染症対策で制限されていることもあるが、児童はひと・ものとの関わり方について日々考えながら成長している姿が見られる。いろいろな経験から失敗することもあるが、できないことを指導するばかりではなく、できることを認め励ますことを意識して指導していくことで自分のよさにもっとたくさん気付いてほしい。	以前に比べると、挨拶ができる児童が増えてきた。学校の取り組みが子供たちに浸透してきたことがうかがえる。車の運転手に会釈する子もいて、感謝の気持ちも育てている。ほやこげ委員会をはじめ、児童が学校をよりよくしようと取り組む姿があつてよい。
		学級にはお互いにルールを守り、協力する雰囲気がある 目標90%	B	【児童回答86.2%、保護者回答74.1%、教師回答81.7%】 コロナ禍で学校の教育活動に制限があり、協力して活動する場を多く設定できなかったという職員の思いが数値に表れたが、ルールやマナーを守る児童の姿も多く見られた。次年度は、交流活動などが活発になり、児童同士のつながる場面が多くなれば再び目標値に向けて向上していくと考える。そのためには、日々の学校生活から相手を思いやる雰囲気づくりに努めていかなければならない。また、児童の数値向上に対し、そう感じていない児童がいることを意識的に捉え、大切に見守っていつてほしい。	委員会よりトイレのスリッパがきれいであること、意識が高まった。クラスの意識を高める活動がよい。みんなで使うものを大切にすることは、社会生活においても必要なことなので教えてあげてほしい。大規模校でも校内がきれいである。
		学校に楽しく通っている 目標90%	A	【児童回答89.6%、保護者回答89.6%、教師回答88.3%】 児童、保護者の回答が目標値とほぼ同値である。友達と過ごすことに大きな価値を見出す児童や保護者が多い。ひと・ものとの関わり合う活動を増やしていくことでやりがいを見つけ、自分事として考えることで関わり合う力や楽しむ力が育つと考える。オンライン授業も可能になった現在であっても、人とのつながりや対話を今後も大切にしていきたい。	相談室登校や不登校の児童に学校がどう関わり、つながっていくかが鍵になる。楽しいと思う時、反対に楽しくないと思う時はどんな時なのかを見極め、支援していつてほしい。
いちしな、な心や難身かになな挑戦心戦えをす合も	目標にチャレンジする子供	健康な心と体づくりに向かって努力している 目標90%	A	【児童回答94.5%、保護者回答73.5%、教師回答85.4%】 新しい生活様式の中でも、運動会の学年団体競技に向けて練習に励んだり、持久走や短縄跳びで目標を決めて記録会に臨んだりする姿が多く、評価数値が高くなっていると考える。 しかし、明確に目標を設定して粘り強く努力する程度については児童によって個人差が見られるため、目標に向かつて前向きに取り組めるよう体育カードを活用したり賞褒の方法を工夫したりしていく。また、体力向上に向けて遊びたくなる道具や誰でも使える道具を用意して授業や休み時間に活用していくようにする。	いきいきと運動会に参加していた。まとまりがあり元気よく活動してよかった。あいさつや地域住民への声掛けなど、以前よりも多くなりとてもうれしく思う。学府での取り組み等、心づくりも大切にしたい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

学習においてはタブレット端末の活用が当たり前になり、そののびしろをどう生かすかという点について先生方の力量が問われると御指摘をいただいた。これからも、対話を軸にどのように子供たちを育てていくかについて、教師も研修を通して研鑽していく必要がある。挨拶や行事活動を通して、地域とのつながりも深まってきた。地域の一員として活躍できるように、子供一人一人に目を向け、自己肯定感を高められるような励ましの声を掛けていきたい。教師の働き方改革についても、メンタルヘルスチェックの定期的な実施をしながら、実行可能な業務改善を続けていく。子どもへの指導も含め、目標達成に向けての手立てを具体的に考えていく。家庭・地域・学校で連携して子どもたちを見守り育てていくためにも、従来の方法だけでなく、新しいことにチャレンジしたり工夫したりしていきたい。